

## 取扱いの趣旨

角膜曲率半径計測は、角膜中央部の形状を測定する検査で、屈折異常の有無と角膜の状態を評価し、角膜乱視の程度や眼軸、角膜屈折力を把握することができる検査であり、屈折異常がない結膜炎等に対する算定は、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年9月30日》

### 291 角膜曲率半径計測の算定について

#### ○ 取扱い

① 次の傷病名等に対するD265 角膜曲率半径計測の算定は、原則として認められる。

- (1) 初診時の屈折異常（近視・遠視・近視性乱視・遠視性乱視・混合性乱視）
- (2) 白内障手術前

② 次の傷病名等に対するD265 角膜曲率半径計測の算定は、原則として認められない。

- (1) 結膜炎（屈折異常なし）
- (2) 眼底疾患（屈折異常なし）
- (3) 眼精疲労（屈折異常なし）

#### ○ 取扱いを作成した根拠等

角膜曲率半径計測は、角膜中央部の形状を測定する検査で、屈折異常の有無と角膜の状態を評価し、角膜乱視の程度や眼軸、角膜屈折力を把握することができる。

計測値は、コンタクトレンズのベースカーブや眼内レンズの度数決定に使用され、屈折異常、白内障手術、角膜疾患に対して実施する。

以上のことから、上記①の傷病名等に対するD265 角膜曲率半径計測の算定は、原則として認められ、屈折異常がない上記②の傷病名等に対する算定は、原則として認められないと判断した。

## グラフの見方

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト  
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、  
査定・返戻となった割合

#### 【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

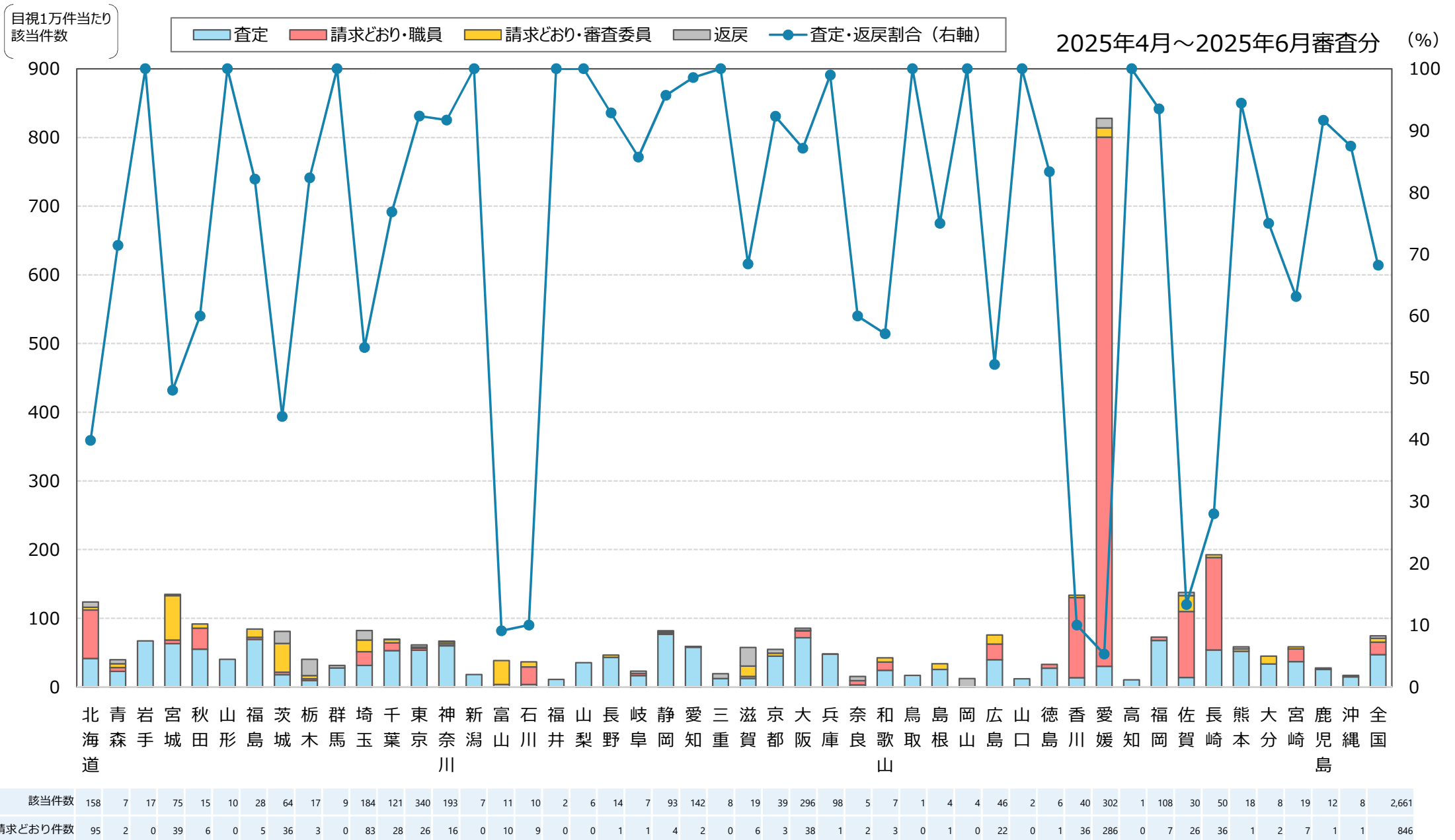
## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 68.21%
- 検証対象都道府県 26

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	愛媛、富山、石川、香川、佐賀、長崎、北海道、茨城、宮城、広島、埼玉、和歌山、秋田、奈良、宮崎、滋賀	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	愛媛、長崎、香川、佐賀、北海道、秋田、石川、広島、埼玉、宮崎、和歌山、千葉、大阪、奈良、青森、徳島	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	宮城、茨城、富山、佐賀、埼玉、滋賀、愛媛、広島、福島、大分、島根、石川、秋田、和歌山、青森、栃木	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,661件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	1,815件
検証を必要とする審査	請求どおり	846件



【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数